|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和６年度田辺市社会教育委員会議　第３回定例会 |
| 日　　　時 | 令和６年９月25日（水曜日）　午前10時30分～午後０時10分 |
| 場　　　所 | 田辺市役所１階多目的ホール１ |
|  | ○社会教育委員出席者13名：　尾崎委員、加藤委員、桐本委員、九鬼委員、久保委員、小山委員、坂本委員、砂野委員、中根委員、西川委員、松場委員、宮本委員、柳川委員欠席者０名：　○事務局７名：　野田教育長、狼谷教育次長、那須生涯学習課長、大西生涯学習課参事、下岡生涯学習推進係長、中野公民館係主事、小出生涯学習推進係主査 |

１．開会　教育長挨拶

２．議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）令和６年度田辺市生涯学習フェスティバル及び田辺市社会教育功労者表彰について

（２）令和６年度情報モラル研修会について

（３）第20回市民スポレク祭について

（４）令和６年度「植芝盛平翁の故郷を訪ねて」について

（５）令和６年度「夢の教室」について

（６）文化振興課行事予定について

（７）南方熊楠顕彰館行事予定について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

　　　Ａ委員：夢の教室について、誰が講師として来るか分かりますか。一般に広く募集をするものではなく、各学校の生徒を対象に実施するという認識でいいですか。

事務局：スポーツ振興課の事業になり、講師として誰が来るかまで把握できていませんが、各学校のある学年を指定して実施するものになります。ＪＦＡ主催の事業を活用していますが、サッカーだけでなく様々なスポーツのアスリートを講師に招いて、講師の体験談を聞かせてもらって、一緒にレクリエーションを行うというのが通常の形となっています。

４．協議

（１）人材育成事業企画部会について

第３回人材育成事業企画部会において議論した内容について事務局より説明を行い、各資料に基づき協議を行った。

その結果、田辺高校出張講座については、チラシのデザインを修正した上でまち歩き事業の募集を進めていくこととし、田辺工業高校出張講座については、部会において確認した方向性のとおり進めることとした。東陽中学校出張講座については、当日の進め方や時間設定の一部見直しを行い、本定例会以降で講師の調整を進めていくこととした。一般公開講座については、開催要項案の趣旨と内容を修正し、社会教育を通じた人づくりを趣旨に明記することとしたほか、講座内において社会教育委員会議の20年間を振り返る場を設ける方向性を確認した。

【質疑応答・主な意見】

田辺高校出張講座

Ｂ委員：まち歩き事業チラシのタイトル文字が背景のデザインと同系色で見づらいと思います。

　事務局：背景を修正するなど、タイトル文字が見やすくなるよう調整します。

議長：チラシは高校側と協議して生徒に配付するという認識でよろしいでしょうか。

　事務局：チラシは高校側にも確認いただいた上で、生徒に配付する流れになります。事務局から１点確認させていただきたいのですが、SEEKER所属の１年生に周知する件については、高校側から提案をいただいたことで、その方向性で進めるとこれまでの議論でも確認していますが、１年生全体への周知でなくてよいか、改めて確認をさせていただければと思います。

議長：終業後の時間帯であり、課外活動の一環という扱いでSEEKER所属の１年生に周知するということ問題ないと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

委員一同：異議なし。

田辺工業高校出張講座

特段の意見等なし。

　　東陽中学校出張講座

議長：前半後半の入替時に移動するのは講師でしょうか。

　事務局：中学生が会場を移動する想定をしていましたが、講師が移動する形でも対応可能です。

議長：数の多い生徒が移動するより、講師が移動したほうがスムーズかと思いますがいかがでしょうか。また、生徒は任意で移動して、それぞれ希望する講師の話を聞くことができるというイメージでしょうか。

Ｃ委員：６つのグループに生徒が分かれ、予めどのグループがどの講師の話を聞くか決めておきたいと考えているので、講師の方に入れ替わっていただければありがたいと思います。先日、別件でゲストティーチャーを呼んで話を聞かせてもらう機会がありましたが、20分では少し足りないところがありましたので、できれば講師の方には25分程度お話をいただき、入替時の移動・休憩時間も少し取っていただければと考えています。

　　　事務局：承知しました。その方向で調整させていただきます。

　　一般公開講座

　　　　　議長：個人的にですが、趣旨の「市長が考える自己評価を交えながら」という言葉が少し引っかかっています。代替案として、「実績を踏まえ」に入れ替えるというのはいかがでしょうか。

副議長：我々が考える今回の狙いを改めて確認しておきたいのですが、我々としては、真砂市長がどんな思いでやってきたかを聞きたい、ということでこれまで議論してきたと思います。これまでやってきて、良かったのか悪かったのか、どうだったのかという自己評価も聞きながら、もっとこんなことをしたい、こんなことを期待しているという話を我々が聞いて、別にそのとおりにするわけでもなんでもなく、自分たち社会教育委員も含め、聞いている人がこれからのまちづくりで何をしていけばいいかを考えるきっかけにしたいというのが趣旨だと思っています。事務局から修正案を出していただきましたが、この趣旨はどこか外部に出るものでしょうか。

　　事務局：市長と面会する際の資料として渡したり、周知に向けた資料を作成する際のベースになったりしますが、趣旨をそのまま転記する、開催要項そのものを情報提供するといったことは基本的にないと思います。

副議長：外部に出ないという中で、事前配付のあった資料から考えると、修正案にある「田辺市のこれまで取り組んできた」という書きぶりを見たときに、我々の想いがすごくぼやけたなというのが正直な感想です。市長がやってきたこと、もちろんそれが市のやってきたことになるというのは理解していますが、それをどういう想いでさせてきたか、どんな想いで作ってきたかを聞くというのが大切な部分と考えています。趣旨は綺麗に流れる様に修正してもらって構わないので、「田辺市のこれまで取り組んできた」という表記で構いませんが、自分たちの想いとして外さないようにしておきたい、という確認です。

　　　議長：趣旨は修正案のとおりにしたとして、Ｈ委員がコーディネーターとして我々の想いを踏まえて話を展開していただければ、田辺市イコール田辺市長になるかと思います。

副議長：リーダーとしてどうやってきたか、どんな想いだったか、そこの真意はどうかということを聞きたい、そうやって考えても言葉が変わると、一瞬で雰囲気が変わってしまいます。

　　　　　議長：言葉を活字にするというのは、影響力があるものだと思います。書いているものが大きいと思うので、多少はぼやかしておくというのも有りだと思います。

　　　　副議長：そう考えると、「市長が考える」というよりも「実績を踏まえ」というのはすごくきれいになっていいと思います。

　　　　Ｄ委員：副議長がお話されたことは自分もすごく納得できて、市長にお会いしてこちらの想いを伝えるということでいいと思います。これまでの議論では、社会教育委員が、みんなが一緒になってやってきた長い歴史、市長の社会教育に対する想いが浮き出るようなお話を聞きたいというのが一番にあったと感じています。文章的にはどうであれ、市長とお会いしてお願いをするときに本音の部分がちゃんと伝えられないと、市長に基調講演をいただけたとしても、我々の思った話ではなかったということでは困るので、そこは本当に田辺市という大きな市でみんなが良くなるようにという想いがいっぱい詰まっていたんだと、それでいろいろやってきたんだという、そういう話を聞けたら嬉しいなというのが、前段の話だったかと思っています。

　　　　　議長：今回は社会教育という言葉をなるべく入れないという方向で議論を進めてきたかと思いますが、先ほどのＤ委員のお話からすると、社会教育という文言を入れずに進めていいのか、改めて考え直した方がいい気がしました。だとすると、事業への想いの前に「社会教育」という言葉を入れてはどうかと思いますがいかがでしょうか。

　　　　副議長：人づくりという一括りの表現が分かりやすくていいと思います。

　　　　Ｄ委員：人づくりイコール社会教育だと、社会教育委員の皆さんは共通認識いただいていると思うので、私は人づくりでいいと思います。

　　　　Ｂ委員：社会教育委員だからそう思っているだけで、一般の人は誰もそう思っていないと思います。

　　　　副議長：一般の方々は社会教育が何なのか分からないと思うので、だからこそ人づくりというシンプルな言葉を使った方がいいと考えています。

　　　　Ｅ委員：自分たちとしては、田辺市長の想いを聞きたいということで議論を進めてきたと思います。副議長のおっしゃるように、修正案はぼやけているように感じます。修正案をベースにするのであれば、「事業に対する取組や想い」の前に「田辺市長」と入れてもらいたいという気持ちがあります。田辺市長として取り組んできた想いとか、これからのことを語ってほしいということなので、やはり田辺市長という言葉を完全に抜いてしまうとおかしいように思います。

　　　　Ｆ委員：話のまとめ方としては、まず田辺市長の想いがあって、市としての実績があるという構成になるのではないでしょうか。想いは想いで大切にするのがいいと思いますが、実績はあくまでも市政としての実績になるので、そこは切り分けておいたほうが収まりはいいと思います。

　　　　　議長：具体的にどのような文章にしたらいいか、対案をいただければと思います。

　　　　Ｆ委員：この文章自体はこれでいいと思いますが、市長に伝える際に話の流れとして、まとめは市政でまとめたほうが無難ではないかと思うところです。

　　　　副議長：最初の説明が大事だと思うので、市長への説明は我々の想いを踏まえて事務局から説明してほしいと考えていますが、何ならＨ委員を連れていくのがいいと思います。

　　　　Ｇ委員：前回の部会で、市長の想いというところが綺麗に伝わってしまっているかもしれませんが、喜怒哀楽を聞きたいと思っていて、20年間やってきた中で、苦労や腹の立ったこと、もっと出来たはずだったみたいな人間味が見える話が聞きたいと思っています。

　　　　　議長：現時点の整理をすると、趣旨をどうすべきかという話の中で、田辺市長としての想いを伝えていただきたいというところを全員が共有し、社会教育に対する想いをぜひ聞きたいという点を外さないような講座にしたい、という議論になっています。この趣旨は、外部にそのまま出るものでもないので、それほどこだわった文言を考えなくてもいいですが、「田辺市長としてこの20年間」という文言から、「市制（合併）20周年を迎えるにあたり」という文言に変わってきています。個人的な考えですが、「市長が考える自己評価を交えながら」という点を「実績を踏まえ」に変えたほうが柔らかいかなと考えています。

　　　　副議長：実績を踏まえという部分はいいと思っていますが、一行目の「田辺市がこれまで取り組んできた」と言った瞬間にぼやけると感じています。７月に実施した人材育成事業企画部会のまとめが手元にあり、読んでいるところですが、一般公開講座について、「市長が取り組んできたまちづくりや日々の暮らしにおける社会教育の重要性、社会教育の果たせる役割、あるいは期待することを伝えてもらって、公民館活動をはじめ、地域のボランティア活動や趣味の活動など、そういったところのベースになる考えを示してもらいたい」という意見が出たということがまとめられていて、この辺が我々の想いを具体的に表した部分かなと思います。基調講演やパネルディスカッションの内容が良い悪いというのは聞く側の判断で、そこから自分たちが何をしていけばいいか、ある程度ベクトルを揃えられれば大きな流れになると思うので、そこを今回の議論で市長にいい話をしてもらえたらなと思います。

　　　　　議長：コーディネーターを務める方の腕にかかっているような気がします。

　　　　副議長：広報など、事務局さんが教育委員会としてこの事業を進めるときに現場が困らないようにはしないといけないと思いますが、過度に意識して、みんなぼやけて、中身のないものになってしまったら危険だと思ったので、敢えてこんな話をさせてもらっています。

　　　　Ｈ委員：田辺市長としての20年は事実としてあったわけなので、あまりそこを配慮する必要はないと考えています。

　　　　事務局：今回、修正案を提案させていただいた経緯の部分で補足をさせていただければと思います。最初にあった「田辺市長として」という部分について、再考してみてはどうかとなり、田辺市としてもちょうど20周年を迎えるということもありますし、合併以降20年間、この社会教育委員会議で取り組んできた地域コーディネーター養成講座やまちづくり市民カレッジ等人材育成の取組をやってきたことも並行して振り返るということも踏まえる中で、修正案のような表現をさせていただきました。田辺市がこれまで取り組んできたというのは、当然市長も含めて田辺市が取り組んできたということです。田辺市長という言葉そのものを入れるのが困るというわけではなく、最終的には市長の考える評価や想いという部分につながるよう、修正案においても趣旨の中に「市長が考える」という言葉を含めています。自分たちの会議資料だけであれば、極論当初のままでも何も問題はないと思いますし、皆さんの想いもそのまま直接伝わると思いますが、開催要項というのが会議資料以外にも出る可能性がありますし、時期的なことも考えたときに、最初に出てくる趣旨は、市長としての20年ではない形で収まった方がいいかと考え、市制20周年を迎えるという頭にさせていただきました。皆さんの想いをぼやかせるつもりはなく、市長の想いや考えというのは当然必要と考えて案に含めています。他の部分については、議論の中で作り上げていただければと思いますが、全体的なつくりとして、最初の頭がそういう入り方ということで、教育委員会としての提案をしたいということで、考えさせていただきました。

　　　　　議長：では、「市制（合併）20周年を迎えるにあたり、田辺市がこれまで取り組んできた“人づくり”を中心に振り返り、到達点と課題点など実績を踏まえ、事業に対する取組や田辺市長の想いを語っていただくとともに、これからの人づくりの在り方を考え、参加者と共有することで、市民の主体的な実践へとつなげる。」というのでどうでしょうか。「市長」、「想い」という言葉は含めてほしいということで、このあたりで大丈夫でしょうか。

　　　　Ｅ委員：可能であれば、事業に対する取組や想いの前に「田辺市長として」と加えていただければと思います。

　　　　　議長：田辺市長をどこに付け加えるかは事務局にお任せしてもよろしいでしょうか。

　　　　Ｈ委員：基本的には、主催として社会教育委員会議で引き受けるという姿勢が必要だとかんがえていますので、社会教育委員会議として決めた方がいいと思います。ある意味責任を明確にしておく、あくまでも委員会が主であるということを示すということです。

　　　　副議長：それで回避できるなら、最初のままで通してもらえたらと思いますがいかがでしょうか。先ほどの事務局から話もお聞きしましたが、なおのこと、違うところにあるなと思ってしまうわけです。市制20周年というその言葉で上手くふわっとさせたというのはよく分かりましたが、先ほどからずっと言っているのは、もうちょっと個人にフォーカスした想いを聞きたいということです。

　　　　Ｈ委員：とはいえ、会議体といえども、事務局は生涯学習課になってしまうので、頭はぼやけるかもしれませんが、趣旨は修正案をベースに進めて、後段の内容部分、基調講演やパネルディスカッションのテーマで回収してもいいかと思います。

　　　　副議長：それでいえば、やっぱりパネリストは社会教育委員であるべきだと思います。

　　　　　議長：順番に進めたいと思いますので、趣旨はそういうことでお願いできればと思います。続いて、内容に移ります。まずターゲット、誰にこの話を聞いてほしいと思って企画するのか、その方たちに何を伝えたいかということ、伝えてどうなってほしいかということを明確にしてほしいと事務局からの提案がありまして、これまでの議論では、社会教育にご縁のない方で、真砂市長を推している方にも来ていただいて、社会教育のこと、人づくりのことを知ってもらいたいということだったかと思います。ですが、このパネリストでそういう人たちが来てくれるかという疑問があります。個人的な考えですが、田辺市長がやってきた人づくりを見ていると、まず一つ目、社会教育を使ってというのは語弊がある言い方になりますが、社会教育によって実現していこうとしたことが、三つあると思っています。一つ目は、町民・村民から市民へ、つまり田辺市民としてのアイデンティティを合併する町村の住民の方たちに持っていただくために、地域シンポジウムや市民カレッジということをして、田辺市としての方向性を皆さんに共有していただくという人づくりのやり方を多分されていたかなと感じていて、これは私の思い込みなので、必ずそうだというわけではありません。二つ目が、就社、どこかに勤めるという仕事の仕方から、就職、職業に就く（地元で起業する）という考え方で、未来塾など、起業する人の人づくりをしてきた。地域で生活するためには、就社ばかりでなく、職を自分で創るという考え方が必要だということで、人づくりをしてきたのが未来塾だと思っています。三つ目が小規模多機能自治で、これから人が減ってくるし、財政的にも苦しいから、自分たちでできることは自分たちが考えてやっていくような人づくりをしてもらわないと成り立っていかないんじゃないかということで、小規模多機能自治の方向性で、この三本柱が人づくりではないかなと個人的には思っています。仮にそうだとしたら、市民としてのアイデンティティを作るために取り組んできた方と、未来塾といった起業・創業という点で人づくりをされてきた方と、最後、小規模多機能自治でこれから田辺市をこう作っていきたいということに取り組んでいらっしゃる三者がパネリストとして上がって話をされるのがいいんじゃないかと個人的には思っています。私の思い込みなので、市長の想いがどうかは分かりませんが、どうでしょうかというところです。

　　　　副議長：私は、市長の考えが分からない中で、そこまで合わせてパネリストを選んでいくと、余計に市長の話をそこに寄せてしまう気がしたので、だったら、もっとフラットなところで、社会教育委員会議が主催なので、社会教育委員が前に出て一緒に議論する方が綺麗で突っ込みどころがないなと思いました。誰に聞かせるかというターゲットの話ですが、まちづくり市民カレッジの開催要項で示した目的が、「地域の魅力を再発見し、田辺の未来を担う人材の育成」、「地域の未来を読み解き、主体的に田辺の地域課題を担う人材の育成」となっているので、そんな人に来てもらうということになるかと思います。どこにそんな人がいるのか、となるんですが、それは、これまでもずっとやってきた公民館長さんや主事さんはもちろんですし、いろんな地域の団体の人たちや我々社会教育委員、若い人たちもそうかなと思うところです。もうちょっとどこに伝えていくかは我々として考えないといけないと思いますが、目的に立ち返れば、聞いてもらいたい人は見えてくるかなと思ったところです。

　　　　　議長：伝えたいこと、どうなってもらいたいかといったことも要項に書いてあるということですね。

　　　　副議長：今二つのことを話したので、ややこしくなりましたが、パネリストは個人的には今の案でいいと私は思っています。

　　　　Ｇ委員：先ほど、広報田辺や紀伊民報以外にどこにアナウンスするかということも事務局から話があったと思いますが、私たちはＥさんが経験されてきた昔から今に至るまでの経過を知らないので、それを知りたいと思っています。市制20周年を振り返ってみて、これだけの人づくりができているということを知りたい人、それがどこにいるのか見えないだけで、いるのはいると思うので、どういうアナウンスをするかで、ターゲットは集められるように思います。

　　　　Ｄ委員：基本的には、副議長の考えに近いかなと思っています。ある程度形作って分かりあったやりとりもいいと思いますが、Ｈ委員のお話にもあったように、20年間のいろいろあった中で積み上げてきたということを、我々で話の方向性を決めるんじゃなくて、市長の持っているものを出してもらえるような進め方ができればと思うところです。議長には申し訳ないですが、Ｅ委員をはじめ、これまでの社会教育委員会議が積み上げてきた歴史の中で、一緒に同じ方向性を向いて、Ｈ委員を揺さぶりながらやってきたそのあたりを分かっている人が登壇していただけると、後を追いかけていく私たちも育つかもしれないと思うので、コーディネーターやパネリストはこのままがいいと思います。

　　　　Ｉ委員：今回の開催要項案は、前回の部会で多くの委員さんが参加されて、活発に議論する中で行き着いた結果で、最高の企画になったとその場の皆さんで確認して、あと議長が納得してもらえるかなというのが課題に残って解散しました。Ｅ委員が帰ってきた意味もあったという話もあり、Ｅさんを長い間支えてこられた方が今議長になっているというすごいシチュエーションもある中で最高のパネリストだということで、議長には申し訳ないですが、前回の部会でしっかり議論しているので、お願いしたいと思います。

　　　　　議長：本当にいいのかと個人的には思います。

　　　　Ｅ委員：でも、本当にいいと思います。ターゲットという話がありましたが、今回の講座にターゲットが必要なのか疑問に思っています。自分たちがこれまで進めてきた人材育成では、公民館職員や社会教育主事など、ターゲットを絞っていったと思います。一方で、自分たちが目指している人づくりというのは、田辺市が何をしようが、自分たちが市民としてどうあるべきか考えて実践できる人、であって、こういう人を育てたいという自分たちの想いが人づくりにつながっていると考えています。人づくりというのは、どこでどう気が付いて、何か実行しようと思うきっかけを作ることで、その機会を我々社会教育委員会議が作っているんじゃないかなと思っていて、特に今回、人づくりということの括りなので、全体向けに募集して100人集まってという中で話をさせてもらえばいいかと思っています。自分は正直田辺市と合併する前から社会教育委員としてやってきて、何かおかしいなと感じることもありましたが、当時、小川係長だったと思いますが、こんな会議の在り方っておかしいよねっていうところの問題意識を共有いただいて、そこから今の形に進んでいった記憶があるので、ちょっとでも自分がお話しできること、また、議長にしてみれば、自分が議長だったときに副議長で支えてくれて、その中で自分の姿を見ながら、思い描いてきたものも、自分が議長となって、その人材育成、人づくりに対して、自分なりにボヤっとしたものでもいいんですが、絶対に感じていることってあると思うので、そういうところを、自分たちは社会教育委員として、市長に訴えるものがあってもいいのかなと思ったりもしているので、言われた以上は仕方がないということで、一緒に登壇いただきたいと考えています。

　　　　Ｆ委員：テクニック的な話になると思いますが、最初に人づくりにするか、社会教育にするかとなったときに、人づくりのほうが分かりやすいだろうという話で、確かにそれはそうだろうとなるんですが、そうしたときパネリストに田辺市社会教育委員会議の議長が出てきたら、結びつきがないので面食らってしまう人が出るんじゃないかと思います。なので、パネリストの方には、社会教育委員でこんなことしましたという実績をチラシに記載してもらえたら、収まりがいいと思います。ターゲットという観点でもそこまで意識しなくても良くなると思いますし、パネリストのお二方も心理的に登壇しやすくなるように思います。

　　　　　議長：実際にやってきたのは副議長なので、そうした人を差し置いて、自分が登壇するというのはどうかという気持ちがすごくあります。

　　　　副議長：今の話はすごく分かりやすくて、世の中、社会教育委員というものを知らないので、広報する際に、社会教育委員や社会教育って何みたいなのはちょっとあってもいいかもしれないと思いました。今後の企画部会で、広報の対象と在り様の議論の中で考えていくことかなと思いました。やっぱり、20年間を振り返る、それをずっと当事者としてずっと見てきた人が、どう感じていたかを語って、それを踏まえて、一番大事なのは次にどうつなげるかの場なので、それを聞いて、じゃあ明日から自分たちは何かしてみようかみたいな、そこをどう作り上げるかの振り返りでないといけないと考えています。単なるやったことを評論しても仕方がないと考えると、先ほど議長から提案されたそれぞれの事業で出てきた人というのはそのことでしか語れないと思うので、ずっと、しかも責任ある立場でやってきた人の意見が大事かなと思います。

　　　　Ｈ委員：先ほどのＦ委員の発言、まさにそのとおりで、最後のターゲットから見て、誰、何、ってなったときに、手段と目的がずれているという指摘はそのとおりだと思いました。ですので、趣旨も社会教育を通じた人づくりでいいと思います。社会教育のことが分かるかどうか、今回の講演で知ってもらうということでも、よくご存じの関係者が来てくれてもいいと思います。ただ、「社会教育を通じた」ということを手段としての中身の部分でも貫徹しておかないと、人づくりの中で未来塾の話題が出てきたときに、すべて持っていかれる可能性が高いと思います。良い意味で未来塾は全国を席捲していて、田辺の取組が一つのモデルになって、みんなが見に来ているので、おそらく市長はそっちに話を持っていくと思われるので、あくまで社会教育、公民館を通じた、その根底にある人づくり、産業分野におけるプレイヤーとしての人づくりというのも重要ですが、それは少し置いといて、それらの根底にある、というところで、内容もパネリストも田辺市社会教育委員、コーディネーターも含めて社会教育委員、敢えて未来塾関係者を出さない、ということで貫徹した方が綺麗に筋も通ると思います。

　　　　事務局：話を伺った際、全体的にターゲットが見えづらいなと思ったんですが、Ｈ委員やＦ委員の話を聞いていると、市長は市長で基調講演をする、それにパネルディスカッションの間か冒頭か分からないんですが、社会教育委員会議がこれまで20年間取り組んできたことが挟まると内容として分かりやすいんじゃないかと感じました。そうしたことがあれば、パネリストが社会教育委員に限定されている意味も分かるし、それを通じて、自分は聞きに行くべき人かなと思う人もいるでしょうし、ターゲットが分かりやすくなるんじゃないかと思います。教育委員会内で考えたときも、趣旨だけみると、あまりにも市長個人にシフトすると単なる応援団のように受け取られてしまうのではないか、又、その逆もあって、これが総括で市長として最後みたいな受け取りをされてしまうのではないか、ということもあって、そういう意味で、個人にフォーカスするより、市の取組にフォーカスする方がいいんじゃないかというのを事務局で考えたことなんですが、今のようなことを私は思いました。

　　　　　議長：大変参考になるお話をいただきまして、事務局にすごい仕事を振っているなと思いながらお話を聞きましたが、大丈夫でしょうか。20周年社会教育委員の歩みということですが。

　　　　事務局：分かっていらっしゃる方が一番語れると思うので、委員のどなたかにお話をいただくのがいいかと思います。

　　　　Ｈ委員：パネルディスカッションのサブテーマをどうしようかと思っていましたが、田辺市社会教育20年史というタイトルをつけようかなと思っていたので、それが別項目であるなら、なお良いと思います。であれば、なおのこと議長はパネリストに必須だと思います。

　　　　　議長：20年史の説明を誰がしましょうか。

　　　　副議長：場面転換のところで説明するというのは本当にいいと思います。むしろ、無いとダメだという気がします。

議長：副議長が令和３年度の近畿地区社会教育研究大会の分科会で事例発表されたと思いますが、そのときのような形式で20年史を事務局とも協力して副議長に作っていただきたいと考えています。これだけ苦労されて、動いてくださっている副議長が何らかの形でスポットライトを浴びていただかないと納得がいきません。

　　　　副議長：その点については、事務局と相談しながら進めるようにしたいと思います。

　　　　　議長：時間が迫ってきましたので、次に進みたいと思いますが、そういった流れで今後とも２月に向けて皆さんよろしくお願いします。

５．その他

（１）令和６年度近畿地区社会教育研究大会［京都大会］の報告について

　・令和６年度近畿地区社会教育研究大会［京都大会］にＧ委員、Ｄ委員、係長が参加し、Ｇ委員、Ｄ委員から報告をいただいた。

　　　Ｇ委員：去年の滋賀大会に引き続き参加させていただきました。滋賀大会は500人程度、今年の京都大会は700人程度の参加があり、とてもいい内容でした。京都に15年住んでいたことがあり、住んでいたところの隣の路地が今回のテーマにあった鷹山という地域で、懐かしさを感じたのと、分科会で聞いた太地町の発表が非常に面白くて、特に印象に残っているのが、社会教育は大人の文化事業じゃないという言葉がとても響いて、地域・学校・役場を繋いでいく、それをデザインしていくために社会教育委員というのがあると言っていたのが印象に残っています。

　　　Ｄ委員：見てきたこと、聞いてきたこと、感動してきたこと、報告書に記載していますので、そちらをご覧ください。今日の話をずっと聞いていて、まさにここかなと思ったのは、この間、新聞等で高校生や中学生の自主的な活動がよく見えてくるじゃないですか。それを広げていただいているＦ委員、新聞を見ながら嬉しいなと思っているんですが、いろんなところで自分がどういうふうに、自分の持てるところでかかわろうかなというふうに社会教育委員の皆さんが思われているんだなと感じて、報道関係者の焦点の定まった報道が、龍神や中辺路など各地域の大人たちの小さな一歩が、本当に自主自立・自治に向けてやっていることが、子どもたちに伝わっていっている、揺さぶっていっていると感じています。田辺高校の女の子が、行政まで行ってすることないですかと聞きに行ったと新聞に書いていましたが、そういうようなところが、我々社会教育委員が20年の中で、田辺で少しずつ積み重ねてきたことなんだろうと思って、それを自分としては、京都大会に参加したこととつながった感想として思いました。私たちも一生懸命に取り組んでいる中で、小さな動きであっても応えてくれるような動きが見えてくると、私たちも力をいただけるので、そういうことかなと思って、行かせてもらって勉強になりました。

（２）田辺西牟婁地方社会教育委員連絡協議会研修会（伊都社連との合同研修会）について

・日時や会場等、現時点で把握している情報を事務局から報告した。

（３）第４回定例会の日程について

　日時：11月28日（木）午後２時～

　場所：田辺市役所　１階多目的ホール３

６．閉会　副議長挨拶